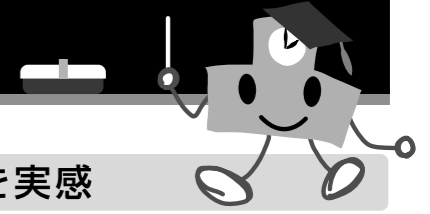


小学校の事例 白石区 北白石小学校

# 教材園での栽培活動にチャレンジ。失敗したダイズづくりで、生産者の苦労を実感。

栽培活動を通して生産者の気持ちを知る  
フードリサイクルを実践するため、残さず食べる栽培をすることを体験しながら学ぶ取組。



## 内容 フードリサイクルを知り 食べ物の大切さを実感

本校は給食調理校であり、平成22年度からフードリサイクル実践校として食育に取り組んでいる。ランチルームで年3回、たて割りの活動の中で異学年同士が顔を合わせて食事をするとともに、栄養教諭が栄養やフードリサイクルについての説明を行っている。

また、教材園でキュウリ、ミニトマト、ジャガイモ、ダイズ

などを、学年ごとに栽培しており、それを給食で調理してもらって食べる機会をつくっている。

しかし、教材園で育てたダイズを給食で調理してもらって食べようと試みた。しかし、土の状態や肥料のまき方が原因なのか、うまく育てることができず、食物を育てることの難しさを実感した。

## 今後 土づくりから再チャレンジし 加工体験の実施へ

この取組をとおして、生産者（食物を作る人）の気持ちを身近にとらえることができ、食物を大切にする環境について考える意識を育むことにつながる。自分たちが作ったものを全校（他の人）に食べてもらうことで、栽培活動にも熱心に取り組むようになり、自分たちが食事する際にも「残さず食べよう!」という気持ちがより強くなると期待できる。

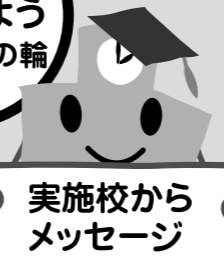
平成23年度は、校舎が小・中合同校舎になる為の工事のため、教材園での栽培活動はしばらく休止となる。委員会活動等で中学生と協力しながらできることを考えていきたい。

今後は、肥料や教材園の土を見直してぜひ成功させ、味噌などに加工する体験などを行いたいと考えている。



給食交流会

### 広げよう つなげよう 環境学習の輪



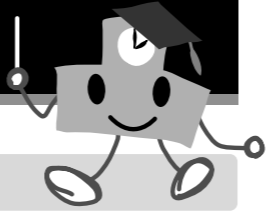
実施校からメッセージ

本校では、委員会活動を「夢ランド」と題し、代表委員会は夢プロジェクト、保健委員会はヘルシーセンター、飼育委員会はアニマルパーク、音楽委員会はドレミパークなど、それぞれの委員会に親しみのある名前をつけています。10年ほど前、当時の教員により発案されました。児童が意欲的に、また、楽しく委員会活動ができる環境になっています。  
エコロジーセンターと名づけられた環境委員会では、リングブルの収集や、1年生の教室へ行き、給食の牛乳パックのたたみ方を教える活動を行っています。

小学校の事例 北区 北陽小学校

# フードリサイクル実践校として活動。食べ物を大切にすることを育む。

DVDを使い、フードリサイクルの一連の過程を学習。  
実際に栽培した野菜や、給食時の調理くずなどから堆肥をつくることを目にする中で、食べ残さない意識が根付く。  
「食」という生活に密接なテーマをきっかけに継続した取組へ。



## 内容 フードリサイクルの流れをDVDで紹介

本校は平成21年から、フードリサイクル実践校となった。市から提供されているリサイクル堆肥を教材園に使用して、全校で土づくりから畑作業を行い、ジャガイモ、エダマメ、ミニトマトなどを学年ごとに栽培している。

さらに、栄養教諭が、フードリサイクルについて子供たちに説明。実際に発酵途中の本物の堆肥を見せるほか、給食を作る過程で発生する調理くずや残食などの生ごみを堆肥化し、それを利用して栽培された作物が食材になる、というフードリサイクルの一連の流れについて説明するDVDを上映している。



フードリサイクルのポスター

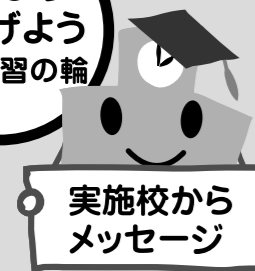
## 効果 給食の食べ残しが減少

子供たちは、通常であれば捨てられてしまうような野菜くずが、堆肥として生まれ変わって活用されていることに新鮮な驚きを感じている。栽培やDVD上映を通じて「食べ物を大切にして、食べ残しをしない」と指導した結果、フードリサイクルの説明があった日は、食べ残しが少なくなるなどの効果があった。この効果を継続できるような工夫が必要だと思っている。



レタス栽培について

### 広げよう つなげよう 環境学習の輪



実施校からメッセージ

本校では、PTAが主体となって、使用済みのインクカートリッジや資源物の回収にも取り組んでいます。資源物は、委託している業者とPTAで校区内をまわって回収。活動により得られた収益金で児童用の図書を購入しているところ。このような取組を子どもが本を手にする時にしっかりと伝え、「食」のみならず、リサイクルという概念について考える機会をつくっていきたくと思っています。今後は環境全般に結びつけながら広がりある学習を目指していきます。  
また、児童会で取組んでいるリングブル収集では、「Ok集まっています」と収集量を掲示するなどして、この取組を通じた目的や他者への思いやりを、学校全体で意識できるような工夫をしていきたいと思っています。